



SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム
**社会的孤立・孤独の予防と
多様な社会的ネットワークの構築**

社会的孤立・孤独の何が問題なのか

浦 光博

(プログラム総括・追手門学院大学)

孤独・孤立の何が問題なのか1

- 身体的健康への影響
 - 死亡率にタバコ15本/1日の影響
- 精神的健康への影響
 - 抑うつ、自殺、 etc.
- 対人関係への影響
 - 引きこもりのトリガー
- 職業生活への影響
 - エンゲージメントの低下、パフォーマンスの低下、離職意図の増大
 - [Workplace Loneliness- The Silent Killer Of Your Organization](#)
- 社会への影響
 - 犯罪被害リスクの増大、道徳性・倫理性の低下、アノミー化

孤独・孤立の何が問題なのか2

- 孤独・孤立の悪影響の予防(二次予防)の仕組み、施策の必要性
- **しかし**、孤立は見えない
 - 周囲の人びとの関心の外に出てしまうから孤立する
- **さらに**、孤独はもっと見えない
 - 人の内面的な状態はもっと見えない
 - スティグマ故に表面化されにくい
- 見えないし、見せようとしないので深く静かに人と社会をむしばむ
 - **The silent killer of our society**

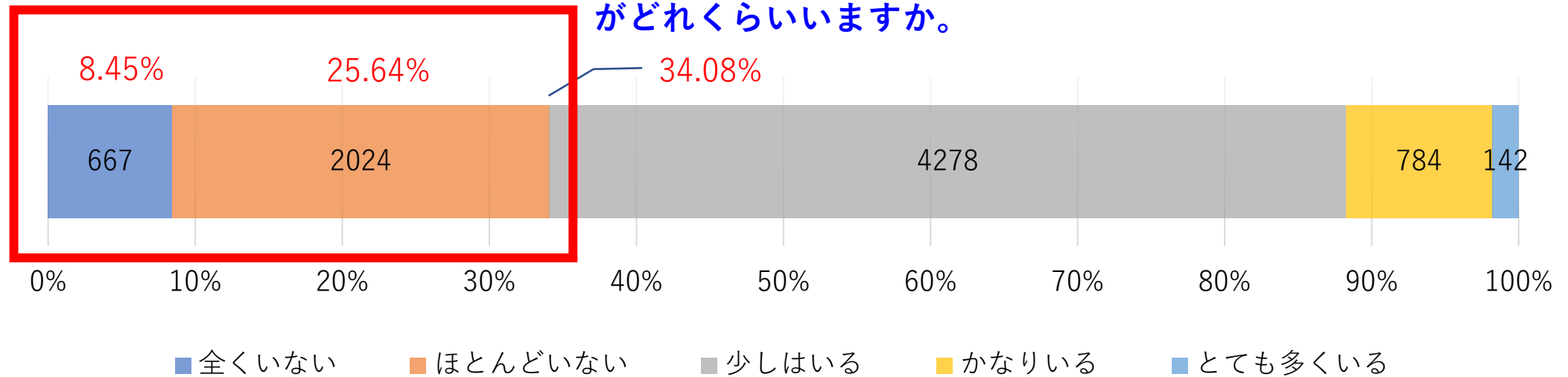
見えなくなる前に防げないだろうか

- 孤立・孤独の一次予防の必要性
 - そもそも孤立・孤独が生まれない社会のあり方とは？
- 0次予防に至る道筋とは？

孤立の現状

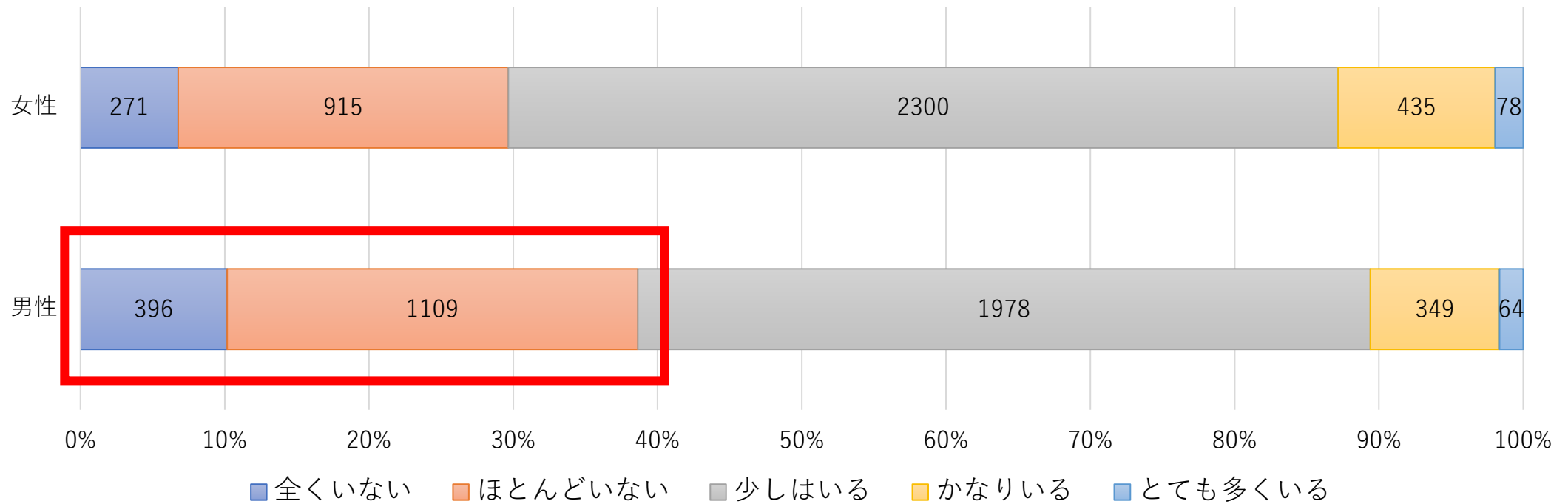
20代から60代の男女8,000名を対象としたweb調査データ(2023年度)の分析結果から

あなたには、普段からちょっとしたことで助け合ったり世間話をしたりする相手がどれくらいいますか。

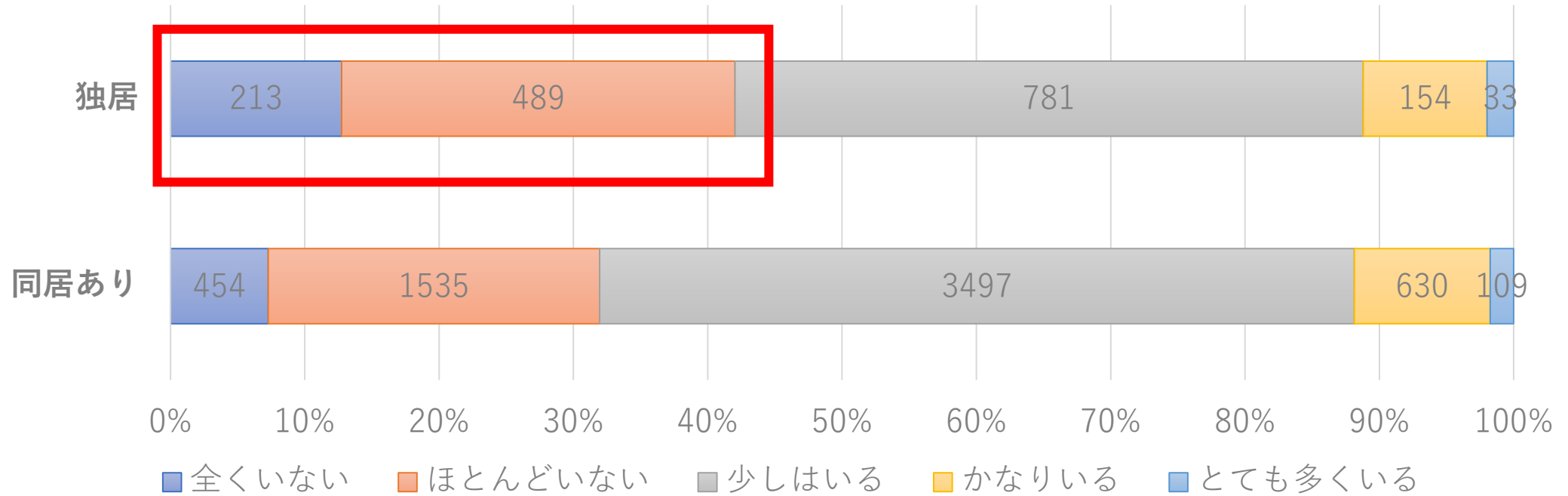


完全孤立者は約8.5%
潜在的孤立者は約25.6%
→孤立者に分類されるのは約34%

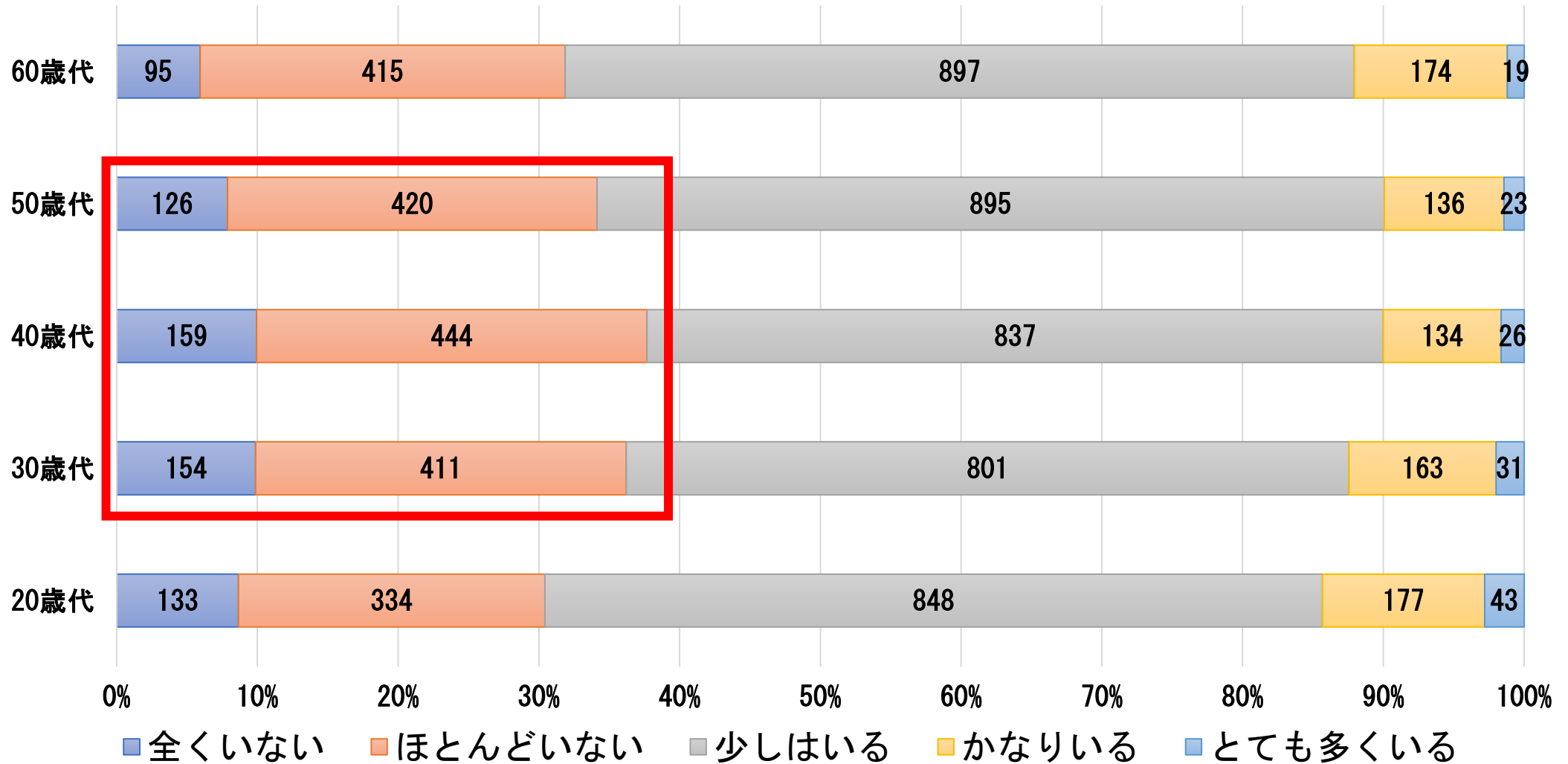
あなたには、普段からちょっとしたことで助け合ったり世間話をしたりする相手がどれくらいいますか（男女別）



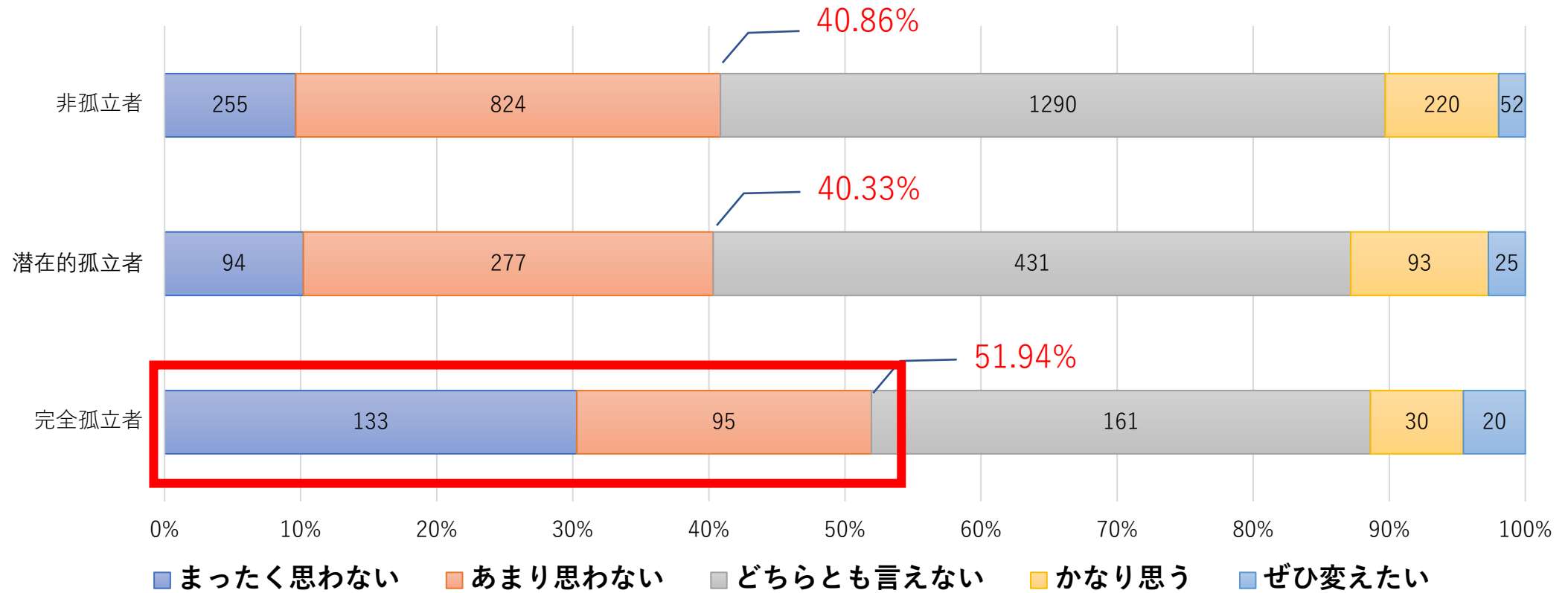
あなたには、普段からちょっとしたことで助け合ったり世間話をしたりする
相手がどれくらいいますか（同居・独居別）



あなたには、普段からちょっとしたことで助け合ったり世間話をしたりする相手がどれくらいいますか（年代別）



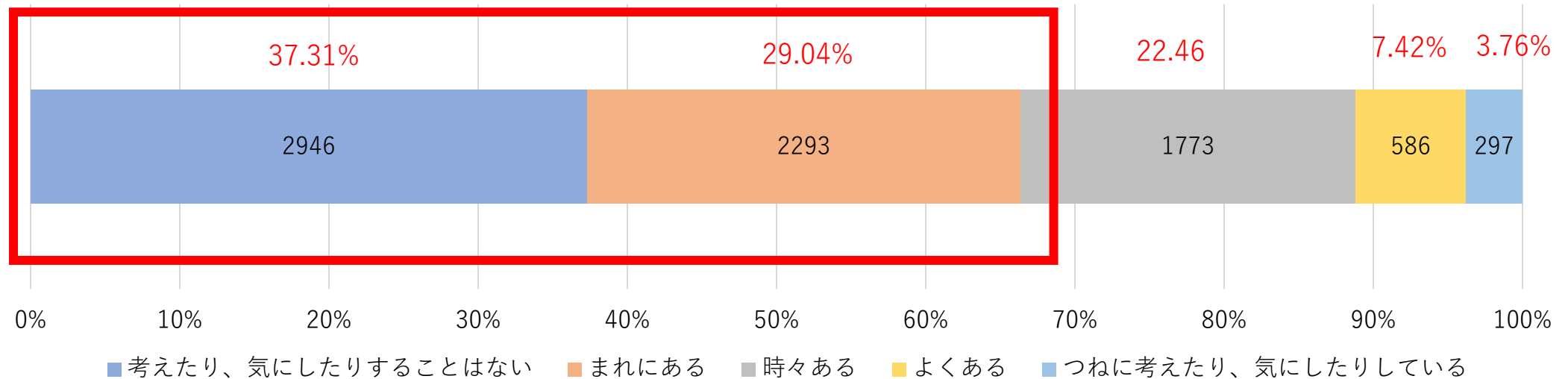
現状を変えたいと思いますか



孤立している者ほど現状を変えたいとは思っていない

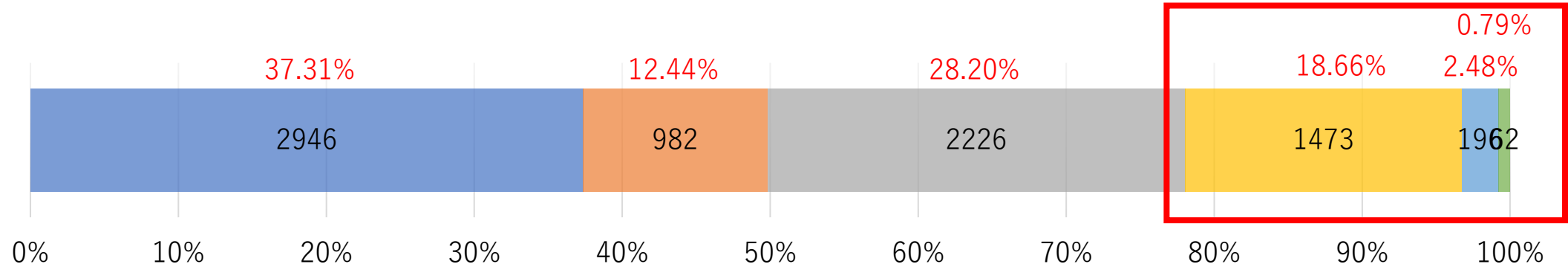
孤立への関心

あなたは、普段の生活の中で、周囲の人びととの関係性が希薄な人（=社会的に孤立している人）についてどれくらい考えたり、気にしたりしていますか。



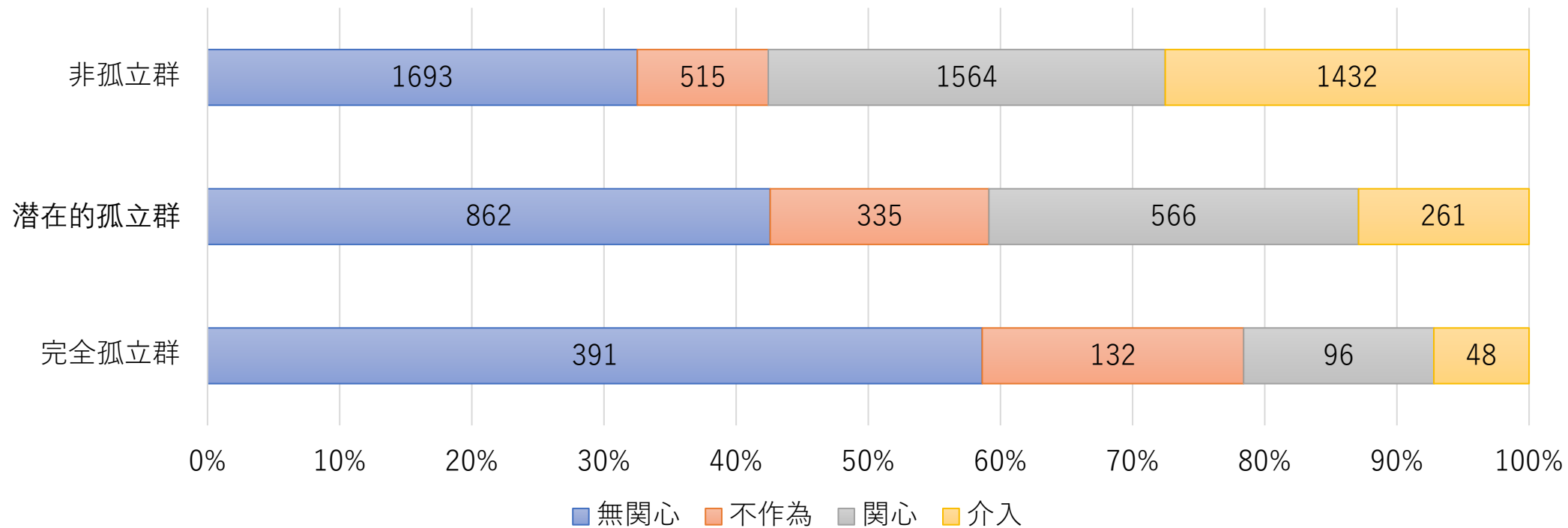
37%の人は孤立に無関心、まれにしか関心を持たない人を合わせると約66%の人が希薄な関心

孤立している人が気になった場合、あなたはどのように振る舞いますか。



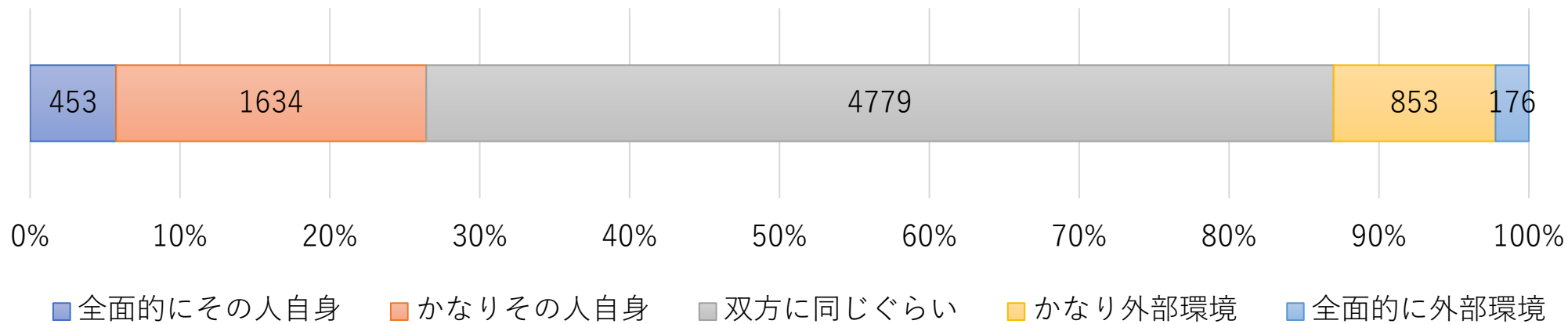
- そもそも関心がない
- 特に何もしない
- 関心は持ち続けるようにする
- その人に声をかけるなど、何らかの関わりを持つとする
- その人が孤立した状態から抜け出せるよう働きかける
- 普段から孤立している人への支援活動を行っている

孤立者に対して積極的に働きかける人は**22%**

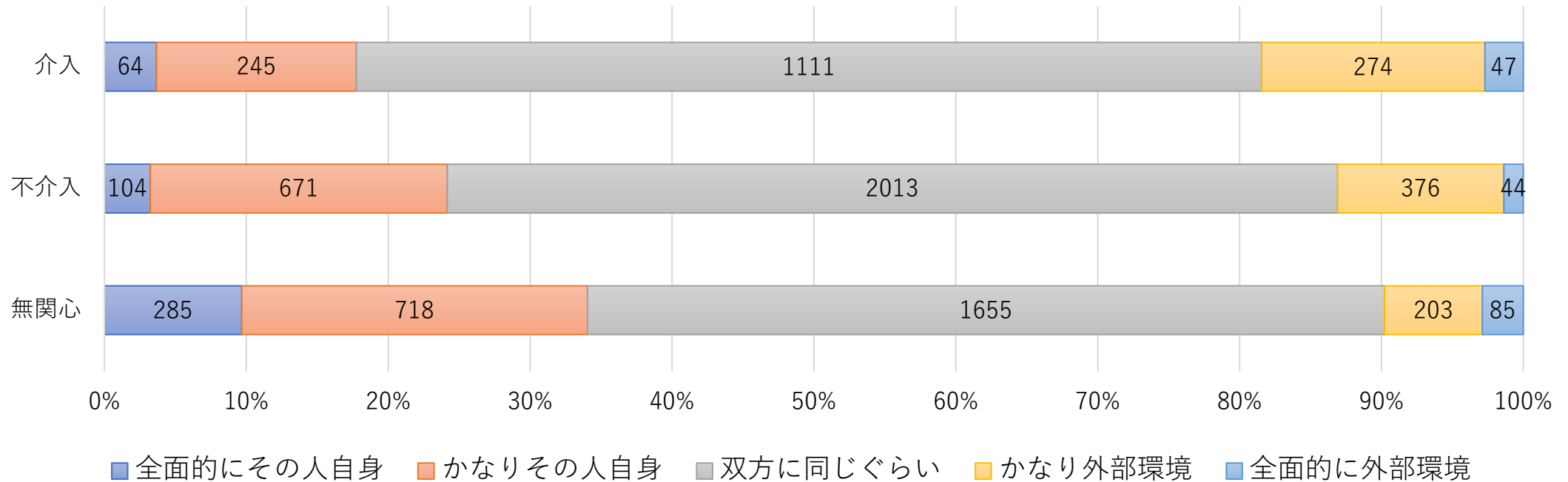


孤立者ほど孤立者に無関心である→孤立の連鎖

社会的に孤立する原因や理由は、その人自身にあるか外部環境にあるか

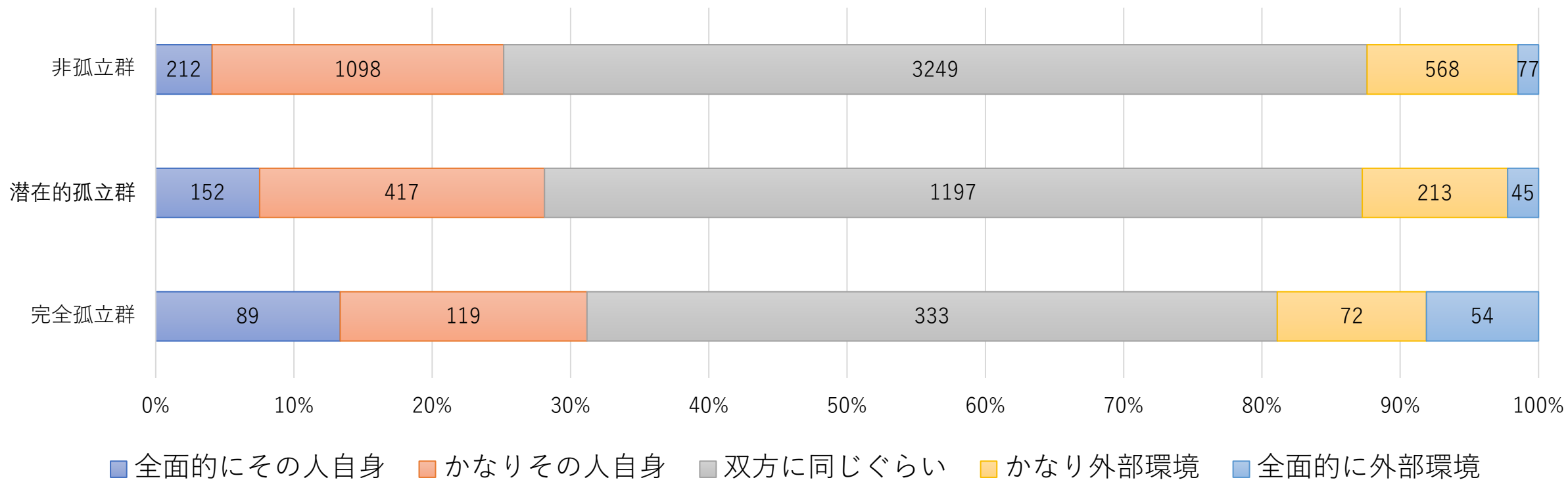


社会的に孤立する原因や理由は、その人自身にあるか外部環境にあるか (孤立への関わり方別)




孤立に無関心な者ほど孤立の原因・理由が本人内部にあると考えている
過度の外部帰属の傾向も認められる

社会的に孤立する原因や理由は、その人自身にあるか外部環境にあるか（孤立群別）



孤立者ほど孤立の原因・理由が本人内部にあると考えている
過度の外部帰属の傾向も認められる

一次予防の視点

- 孤独・孤立は見えない
 - 当事者自身が現状を変えたいとは思っていない
 - 見えたとしても、積極的な介入は期待できない
 - 孤独・孤立は連鎖する
- 
- 当事者と周囲の人びととの相互作用（共同作業）の結果として孤立・孤独が生じ、深まっていく

社会的孤立・孤独のメカニズムの解明

- 人びとが社会的に孤立し、孤独を抱えるに至る過程にどのような要因が関わっているのか
- 個人的要因
 - 属性
 - 男性
 - 30代～50代
 - 独居, etc.
 - 個人内過程
 - 自己責任化
 - スティグマ、自己スティグマ
 - 馴化, etc.

社会的孤立・孤独のメカニズムの解明

- 对人的要因
 - 無関心、スティグマ、自己責任化、etc.
- 集団・組織・地域的要因
 - 規範、制度、風土、etc.
- マクロな環境要因
 - 社会構造、文化、風土、etc.

孤立・孤独のリスクの可視化

- すでに可視化されているものもある
 - 男性であること
 - 30代から50代の年齢層にあること
 - 一人暮らしであること
 - しかし、これらが孤立・孤独のリスク要因であることに気づいていない
 - 気づいていたとしても、それがsilent killerであることを知らない（馴化）
 - 知っていたとしても、行動につながらない（スティグマ、自己責任）
 - 結果的に、可視化されないのと同じ
- 個人内リスクの可視化はさらに困難
- マクロなリスクの可視化も簡単ではない

孤立・孤独を予防する社会的仕組みの構築

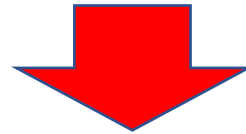
- ① リスクを可視化する仕組み
- ② 可視化された諸要因がリスクであることに気づかせる仕組み
- ③ 当事者と周囲の人びと双方による自己責任化やスティグマ化を抑制する仕組み
- ④ 当事者の関係構築への動機づけ、周囲の人びとの介入への動機づけを高める仕組み

多様な社会的ネットワークの構築

- 仕組みづくりというと、「さあみなさん、孤独な人、孤立している人を助けましょう」「孤独な人、孤立している人はもっと積極的に人の輪の中に入りましょう」となりがち
- これらの必要性は否定しない
- しかし、このような仕組みはともすると人と人とのつながりが強すぎて息苦しい関係をつくってしまうことになる
- 自然と孤立・孤独に関心が向き、人と人がゆるやかにつながり合える仕組み作りはできないものか
 - 多様な社会的ネットワークの構築
 - 社会的孤立・孤独の0次予防

探索的な試み

- 孤立・孤独に関連するマクロ要因の探索的な検討
- 2023年データを用いて、各都道府県の孤立・孤独の平均値を算出し、都道府県の種々の統計指標との関連を検討した



- **第三次産業**従事者率の高い都道府県に住む人びとはその低い都道府県に住む人びとよりも孤立の程度が低く、孤独感の程度も低い
 - 第一次産業（農林水産業）、第二次産業（生産加工業）以外の産業
 - 小売業、サービス業、情報通信業など多岐にわたる
 - 労働集約性が高い
 - **産業の主役が労働者**
 - 資本集約性の高い第二次産業では、産業の主役は資本